2020への願い

高一　磐城
佐藤　よしの

〈東京2020に向けて〉

Q 東京2020とは？

A 東京2020大会は、2020年に東京で行なわれるスポーツの大会として、だけでなく、日本や世界に対し、スポーツ以外も含めた様々な分野でポジティブな①レガシーを残す大会として成功させなければいけない。レガシーを残すためのアワションを推進していくために、「スポーツ、健康」、「街づくり、持続可能性」、「文化・教育」、「経済・テクノロジー」、「復興・オリンピック・パラリンピック大会に期待する若者の大会への関心を高めるため、オリンピック・パラリンピックを通じて描くプロジェクトが行われるレガシーは、世界への発信」のら本の様子として、若者②ステークホルダーにポジティブなレガシーを残すことを目指していくことにした。

①レガシー＝過去の遺産。

②ステークホルダー＝企業経営における利害関係者（消費者、地域社会、行政機関などの）

〈2020に向けての願い〉

オリンピアン・上山さんは、2020年は一つの目標であるから、その先もスポーツに関わっていきたいと話をしていた。パラリンピアン・田口さんは、2020年に向けて色々な競技を見て、ルールやマナー、選手のことを学んでほしいと話をしていた。そこで、私も2020に向けての願いを考えてみた。私は、オリンピック・パラリンピックの開会式・閉会式を一緒に開催するべきだと思う。同じ国から出場する仲間として、もっと交流を深めるべきだと考えた。差別がなくなった世界でも、全ての差別がなくなったとは思えない。私が今、普通にご飯を食べて、学校に通って、友達と遊んでという生活が出来ていても、世界のどこかの国の人々はそれが出来ないということもあるはずだ。私は、オリンピックを世界中の人が見ることが出来るような世界になってほしい。そして、困っている人に手を差しのべる人がもっと増えてほしい。2020年までに、私が願っている世界が来るのは難しいと思うけれど、いつかのオリンピックの開会式は、オリンピック・パラリンピックの選手が一緒に入場してほしいと私は思う。オリンピックの年が来るたびに少しずつ世界が平和になったらいいなと思う。私が平和だなと感じる時は、誰かと一緒に笑っている時だ。平和だなと感じる瞬間は人それぞれだと思うけれど、平和だなと感じる人、瞬間が増えたらいいなと思う。私は、自分が願う世界に近づけるために、周りの人を助け、「人のために」を大切に2020年を迎えたいと思う。